

科目名	音韻・音声 I (概論)1～2
授業の目標・ねらい	日本語教育で必要とされる音声学の基礎を学びます。日本語教師には学習者の日本語の発音矯正が求められますが、日本語として誤った音というのは日本語に存在しないものです。したがって、音声全般についてきちんと理解できるようになることを目標とします。
授業内容・授業方法	音声学の中でも言語教育の現場に立つ教師に最も必要とされる調音音声学と呼ばれる分野の基礎知識を中心に講義します。内容は、単音(母音、子音)、音節とモーラ、アクセントと声調、イントネーションにわたります。母音と子音については、その仕組みとともにそれを表すための音声記号についても解説します。
予習・復習	参考書もしくはそれに類する本で概略をつかんできていただくと理解の助けになります。
使用テキスト	教室ではプリントのみ使用
参考書等	斎藤純男(著)『日本語音声学入門 第 3 版』三省堂、2025、ISBN-10: 4385345902
講師名	黄 海萍
所属	外国語学部
研究分野	音声学・言語学
講師紹介	中国南部に居住する少数民族チワン族の言語であるチワン語を対象に、音韻・声調体系および文法構造の研究を専門としている。とりわけ言語音声の体系的分析に関心を持ち、言語間の音声比較研究に取り組んできた。2008 年から 2011 年まで中国の高等教育機関において日本語講師として勤務し、日本語学習者への発音指導に携わった経験を持つ。教育現場での実践と言語学研究的双方の視点から、日本語の発音を「感覚」ではなく科学的に理解し、日本語教師に求められる音声分析力と実践的発音指導力を養う授業を目指す。